

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	飯島 祥二		所属	観光産業科学部 観光科学科	
職名	教授		所属	観光産業科学部 観光科学科	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.40	<p>概略:授業科目に関する講義は最新の研究動向を踏まえ応用的側面に配慮した講義方法を検討する。研究演習においては、就職活動等に注力しながらも、定性的研究における論文レビューと定量的研究領域でのメソッド等に留意しながら、観光研究の基礎的手法を教授する。実務的な研究メソッドを教授することにより一層の応用的実務能力の涵養を心がける。以下、具体的に記述する。(1)大学院における指導は、研究発表用論文の作成を中心に進める。大学院在籍中に複数回の研究発表を促す。(2)学部学生における指導は、基礎的分析手法等を中心に研究発表用論文の作成を目指す。その際、定性的観光研究の枠組みと定量的統計手法の会得に注力する。(3)研究指導に際して、県内外の実地での調査を重視し、調査研究の基礎的手法を教授する。</p>	0.40	<p>最新の研究動向を踏まえ、観光学の有する応用面に留意しながら、設定した目標に従い活動を実施した。本年は、「環境心理学から観光学へのアプローチ」、「環境工学(光環境学)から観光学へのアプローチ」の二つの基本的軸を設定して「教育・学生支援」を行った。(1)中泊華希、山城健吾、上原明、飯島祥二(2017)観光目的地の商業施設における観光的特性に関する研究—沖縄県那覇市国際通り周辺における観光者と地元業者による標的の関係性を通して—、第32回日本観光研究学会全国大会 学術論文集、pp.145-148。(2)宮田有理・山城健悟・直井岳人・飯島祥二(2017)商業空間の観光的特性と光環境の関係性に関する研究、日本建築学会東海支部研究報告集、pp.325-328などにおいて学生教育支援の成果を提出した。また、今年学会での発表を学部学生が行ったことが特記される。これらの「教育・学生支援」のプロセスは、研究論文のレビュー、研究手法の教授、実際の研究計画の策定、フィールド調査における実地での指導、調査結果の統計的分析、調査結果のリミテーション設定などを段階的に教授し、最後に発表の細部にわたる教授を行った。</p>	
研究	0.40	<p>概略:審査付論文の公表を中心に、観光学と環境学の複合領域研究の進展に注力する。今年、人間-環境系研究等の観光科学へのアプローチに注力し、審査付き5本、査読無4本の計9本の論文を公表した。以下に論文一覧を提示する。(審査有) Nakamata, R., Naoi, T., & Iijima, S.(2017年6月). Effects of touristic elements in photographs on potential visitors' evaluations of a volcano. Proceedings of 2017 Travel and Tourism Research Association (TTRA) Annual International Conference, Quebec City, Canada. Naoi, T., Sosghiroda, A., & Iijima, S.(2017年8月). Chapter 5: The gaze and objectives of townscape visitors. In A. Decrop & A. G. Woodside (Eds.), Consumer Behavior in Tourism and Hospitality Research (Advances in Culture, Tourism and Hospitality Research) (pp. 81-95), Wagon Lane, UK: Emerald Group Pub Ltd. Hiruta, T., Naoi, T., Iijima, S., & Uehara, A (2017年9月). Emotional labor in shopping districts: its relationship with cross-cultural adaptability, customer orientation, emotional exhaustion, and job satisfaction. Proceedings of the 7th Advances in Tourism Marketing (ATMC) Conference, Casablanca, Morocco. Uehara, A., Naoi, T., & Iijima, S.(2017年9月). Relationship between Streetscapes and Tourists' evaluation: A case of a shopping district. Proceedings of the 7th Advances in Tourism Marketing (ATMC) Conference, Casablanca, Morocco. Uehara, A., Naoi, T., & Iijima, S.(2018年2月). Relationship between perceived shops' servicescape and tourists' purchase intention:The case of a shopping district in Naha city. Proceedings of the 28th Annual Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) Conference, The University of Newcastle, Queensland, Australia. (査読無) 中俣良太・直井岳人・飯島祥二(2017年5月)リスクを内包する自然資源を持つ観光地の誘客力のある写真の特性についての研究:活火山「桜島」を調査対象物として 人間・環境学会 第24回大会 大阪工業大学 大阪市 中俣良太・直井岳人・飯島祥二(2017年12月)潜在的訪問客によるリスクを内包する自然資源を持つ観光地の画像の評価と彼らの個人特性の関係:活火山「桜島」を調査対象物として 日本観光研究学会全国大会学術論文集、32、29-32。 中泊華希、山城健吾、上原明、飯島祥二(2017年12月)観光目的地の商業施設における観光的特性に関する研究—沖縄県那覇市国際通り周辺における観光者と地元業者による標的の関係性を通して—、第32回日本観光研究学会全国大会 学術論文集、pp.145-148。 宮田有理・山城健悟・直井岳人・飯島祥二(2018年2月)商業空間の観光的特性と光環境の関係性に関する研究、日本建築学会東海支部研究報告集、pp.325-328</p>	0.40		
社会貢献	0.00	<p>概略:日本建築学会の委員会等で、環境分野の進展に寄与し、また、観光環境学・建築環境工学におけるアカデミックスタンダードの策定に注力する。その他、主に研究成果をもとに基礎的領域において社会貢献に注力する。(1)日本建築学会 建築の質感と色彩計画小委員会委員など(2)日本建築学会 都市色彩色彩測定法基準策定WG主査、その他の委員会等(3)学外研究員等、武蔵野大学環境研究所客員研究員など(4)日本建築学会九州支部環境工学委員会、沖縄支所委員等(5)その他の委員会(複数)等における社会貢献(6)研究領域を通しての社会貢献を、地域環境研究を通して実施</p>	0.10	<p>概略:日本建築学会の委員会等で、環境分野の進展に寄与し、また、観光環境学・建築環境工学におけるアカデミックスタンダードの策定に注力した。その他、主に研究成果をもとに基礎的領域において社会貢献に注力した。(1)日本建築学会 建築の質感と色彩計画小委員会委員など、年に複数回の研究打ち合せと委員会(2)日本建築学会 都市色彩色彩測定法基準策定WG主査、その他の委員会等(3)学外研究員等、武蔵野大学環境研究所客員研究員など(4)日本建築学会九州支部環境工学委員会、沖縄支所委員等(5)その他の委員会(複数)等における社会貢献(6)学生指導における研究領域を通しての社会貢献を地域環境研究を通して実施、また本年は内外の基幹学会の論文審査や運営に注力した。</p>	
管理運営	0.10	<p>概略:管理運営に関しては、円滑な運営のために注力したい。(1)学生生活委員会、学生支援指導専門委員会、総合情報処理センター委員会委員、総合情報処理センター専門委員会委員、動物実験委員会委員、ジェンダー協働推進室委員、ダイバーシティ推進本部委員会委員、その他の委員会委員 (2)学部委員会 就職指導委員会委員、その他学内の委員会等の委員</p>	0.10	<p>概略:管理運営に関しては、円滑な運営を心掛け実施した。(1)学生生活委員会(2)学生支援指導専門委員会(3)総合情報処理センター委員会委員、総合情報処理センター専門委員会委員(4)ジェンダー協働推進室委員(5)ダイバーシティ推進本部委員会委員、その他の委員会委員 (2)学部委員会 就職指導委員会委員、その他学内の委員会等の委員当について活動を実施した。</p>	
計	0.90		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 晶子	所 属	観光産業科学部 観光科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 観光科学科の目標に照らした教育目標の設定 予習復習に取り組むことを可能な授業方法工夫 授業評価等の指摘を取り入れた授業改善 学生からの積極的な意見の聴取 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> シラバスに教育目標を組み込んだ 授業に小テストを導入し、予習復習に取り組む授業方法を工夫した 授業評価等の指摘を取り入れた授業改善に努めた ウェブクラスを利用することで、学生との連絡をスムーズに執り行うことができた 卒業論文の制作指導をし、論文を完了させた 	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等学外研究費の応募と獲得 学外研究会等への積極的な参加 学術雑誌への投稿、学会での報告 学会誌編集員としての活動 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 科研費等学外研究費の応募し、基盤B(分担)を獲得した 2つの国内学会で報告した 5本国際学術雑誌へ投稿し、現在までに2本が受理された 3つの学会誌編集員として活動し、図鑑に執筆した 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学外の審議会、委員会等への参画 国際貢献への取組 他機関における教育支援 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋大学情報学研究科における教育支援をおこなった 一般雑誌『現代思想』に寄稿した 	
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 所属部局および学科における委員会での業務の遂行 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 所属部局および学科における委員会に参加した 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	荒川 雅志		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ● 学士教育プログラムの目標に沿った教育の実践 ● 外部研究者、実務家等との共同による社会ニーズに沿った講義提供 ● 就学指導、就職活動の支援 	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ●【学士教育プログラムの目標に沿った教育の実践】 学科特色科目「ヘルストゥリズム論」では、URGCC学習教育目標のすべての評価を平均以上上回ることで目標は達成できた。座学のみでなく校外での体験実習を多く取り入れた授業構成に対し授業評価アンケートで好評価の記述が多数見られ地域特色ある講義が提供できている。 ●【外部研究者、実務家等との共同による社会ニーズに沿った講義提供】 日本の大学で初のSPA実践的講義「SPAMANAGEMENT論」では、日本最大のSPA業界団体のNPO日本SPA振興協会、沖縄県エステティックSPA協同組合の後援を得て、SPA業界で活躍する第一線の講師陣を招聘してオムニバス形式で実施した。本学の知の拠点大学の一環として公開授業とし、全国から9名の社会人が参加、修了証書を授与した。 ●【就学指導、就職活動の支援】 ゼミ生を対象に進路調査・指導をこまめに実施した。就職希望者を母数とする就職率は100%を達成した。 	
研究	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ● 科研費代表者、分担研究者としての研究遂行 ● 産官学連携の共同研究、受託研究等、外部資金の積極的な獲得 ● 学術誌、学会における成果発表 	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ●【科研費代表者、分担研究者としての研究遂行】 研究代表1件(新規)、分担研究1件に採択され(継続)当該研究を遂行した。 1) 荒川雅志研究代表「次世代ヘルスケアとしてのヘルストゥリズム研究」(2017～2019年度・文科省科研基盤研究(C)) 2) 荒川雅志分担研究者「原発事故後の親子の生活・健康変化の実態解明と社会的亀裂修復に向けた介入研究」(2015～2017年度・文科省科研基盤研究(A)) ●【産官学連携の共同研究、受託研究等、外部資金の積極的な獲得】 受託研究5件、助成金1件を獲得し研究を遂行した。 1) 荒川雅志:平成29年度沖縄ハワイ協力推進事業採択。課題名「沖縄ハワイ海洋ウエルネス産業交流国際拠点形成に関する共同研究」(沖縄科学技術振興センター、1,200千円) 2) 荒川雅志:「沖縄ノルディックウォーキングの消費エネルギー測定研究」受託(委託元:座間味村、36千円) 3) 荒川雅志:公益財団法人琉球大学後援財団「教育研究奨励事業」採択(採択内容:日本レジャー・レクリエーション学会第47回学会大会開催支援、70千円) 4) 荒川雅志:「沖縄型医療ツーリズム、ウエルネスリゾートツーリズム開発・販路開拓事業」受託(委託元:南部徳洲会病院、530千円) 5) 荒川雅志:「久米島海洋深層水ウエルネスプログラム開発研究事業」(委託元:久米島町、9,520千円) 6) 荒川雅志:「高齢者ケア人材活用モデルの産官学連携研究」(経済産業省「商業・サービス競争力強化連携支援事業」(委託元:株式会社グローリアツウエンティーワン、1,480千円) (寄附金獲得) 医療法人タビック200千円 株式会社沖縄海洋工機開発200千円 有限会社比嘉酒造100千円 株式会社沖縄テクノクリエイト100千円 株式会社ロート・F・沖縄100千円 株式会社上原ミート100千円 WBFリゾート沖縄株式会社100千円 株式会社前田産業ホテルズ100千円 ザ・リッツカールトン沖縄100千円 ザ・テラスホテルズ株式会社100千円 株式会社ぬちまーす100千円 ANAインターコンチネンタル石垣リゾート50千円 株式会社国際旅行社50千円 沖縄ハム総合食品株式会社50千円 株式会社三倉食品50千円 有限会社沖縄長生薬草本社50千円 株式会社ロワジュール・ホテルズ沖縄50千円 大高商事株式会社50千円 合同会社OAM50千円 ソムノクエスト株式会社50千円 株式会社LeFuro 50千円 いきいきライフ株式会社50千円 琉球文化交流研究センター合同会社50千円 株式会社かりゆし50千円 イーストホームタウン沖縄株式会社20千円 沖縄ツーリスト株式会社20千円 個人寄附(3名)180千円 ●【学術誌、学会における成果発表】 国際学術誌4件、国内学会発表6件(共同連名)、著書1件と一定の成果を挙げた。 (研究論文) 1) Tanaka K, Miyake Y, Hanioka T, Furukawa S, Miyatake N, Arakawa M. The IL18 Promoter Polymorphism, rs1946518, Is Associated with the Risk of Periodontitis in Japanese Women: The Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Tohoku J Exp Med. 2017 Nov;243(3):159-164 2) Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Furukawa S, Arakawa M. Dietary patterns and depressive symptoms during pregnancy in Japan: Baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. J Affect Disord. 2018 Jan 1;225:552-558. 3) Kawasaki Y, Miyake Y, Tanaka K, Furukawa S, Arakawa M. Smoking and secondhand smoke exposure and prevalence of depressive symptoms during pregnancy in Japan: baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. Tob Induc Dis. 2017 Jul 24;15:34. 4) Tanaka K, Miyake Y, Furukawa S, Arakawa M. Secondhand smoke exposure and risk of wheeze in early childhood: a prospective pregnancy birth cohort study. Tob Induc Dis. 2017 Jul 18;15:30. 	

			(学会発表) 1) 高屋優, 荒川雅志, ほか. アスリートの琉球もろみ酢摂取による精神心理的効果, 日本レジャー・レクリエーション学会第47回学会大会, 沖縄 2) 図師里佳, 荒川雅志, ほか. アジア最大級海洋健康増進施設活用による健康サービスの研究開発, 日本レジャー・レクリエーション学会第47回学会大会, 沖縄 3) 喜瀬真雄, 荒川雅志, ほか. 50歳以上女性における運動介入による2ステップ値の変化の検討, 日本レジャー・レクリエーション学会第47回学会大会, 沖縄 4) 慶田花英太, 荒川雅志. 総合型地域スポーツクラブの社会資源としての価値向上に向けた支援方策の検討, 日本レジャー・レクリエーション学会第47回学会大会, 沖縄 5) 王先躍, 荒川雅志. 農産物を観光レジャー・レクリエーション資源とする視点の一考察, 日本レジャー・レクリエーション学会第47回学会大会, 沖縄 6) 林麗雅, 荒川雅志. 中国海南省における医療健康観光の事例研究, 日本レジャー・レクリエーション学会第47回学会大会, 沖縄 (著書) 著書1件を執筆した。 1) 荒川雅志(2017)『ウェルネスツーリズム-サードプレイスへの旅-』(NPO日本スパ振興協会編著、フレグランスジャーナル社、2017年9月発刊)
社会貢献	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ●国県市町村等の委員会等への参画 ●産官学連携の共同研究、受託研究等による連携構築 ●各種講演、外部講義の提供 	<p>知の地域創生視点大学の社会貢献に資する国県各種事業への参画、委員参画、講演等を精力的に実施した。</p> <p>●【国県市町村等の委員会等への参画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 沖縄観光バリアフリー・アドバイザー派遣に関する委員会座長(沖縄県文化観光スポーツ部) 2) 沖縄ブランド商品創出促進支援事業審査委員会委員就任(沖縄県商工労働部) 3) 全国健康ラボ連絡協議会理事就任。 4) 一般社団法人沖縄コーヒー協会理事就任。 5) 一般社団法人アジア食文化協会理事就任。 6) 石垣市第4次総合計画後期基本計画審査議会「委員就任。 7) 石垣市地域創生総合戦略検証委員会」委員就任。 <p>●【外部公開講座、講演、監修等の社会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川雅志: ダイエット&ビューティフェア2017「沖縄食材検定講座」2017年9月, 東京ビックサイト ・荒川雅志: スパ&ウェルネスジャパン2017日本のスパトップリーダー100人会議「スパマネジメント論ダイジェスト講座」2017年9月, 東京ビックサイト ・荒川雅志: 琉球大学公開講座「生涯活躍のまちづくり人材育成講座」開催(12月20-21日: 琉球大学生涯学習実践センター会場) ・荒川雅志: 琉球大学観光産業科学部公開講座「農業×漁業×観光=新産業イノベーション〜沖縄におけるアクアポニックスの可能性を考える」開催(12月19日: 琉球大学) ・荒川雅志: 観光庁委託事業、「命草(ぬちぐさ)活用による未病・予防ツーリズム協議会」に参画、同主催「“ぬちぐさ” (命の薬)をいただく旅-命草(ぬちぐさ)・ウェルネスツアー2泊3日/8泊9日」の監修および受け入れ対応実施(11月30-12月8日: ANAインターコンチネンタル石垣リゾート) ・荒川雅志: 「シニア短期留学in沖縄2017」を開発監修および受け入れ対応実施(11月26-12月1日: 本島全域、シニアと大学と地域ネットワーク、イーストホームタウン沖縄企画運営、日本旅行総合企画) ・荒川雅志: 琉球大学観光産業科学部公開講座「第1回沖縄ヘルスケアビジネス研究会〜沖縄のヘルスケアを考える」開催(11月17日: 琉球大学。万国医療津梁協議会共催) ・荒川雅志: 琉球大学観光産業科学部公開講座「観光バリアフリーセミナー」開催(11月10日: 琉球大学。沖縄県と共催) ・荒川雅志: ロシア最大経済団体オーパロシア沖縄交流視察団、在福岡ロシア連邦名誉領事受け入れプログラム監修、受け入れ対応実施(10月4-6日: 金武町〜本島全域) ・荒川雅志: 久米島観光の日で講演。講演タイトル「次代の観光を久米島から〜ウェルネスツーリズム久米島」(9月3日: 久米島イーブ情報プラザ) ・荒川雅志: 「NHK BSプレミアム」歴史×健康バラエティ 偉人たちの健康診断(6月28日放送)で海の健康治療法・海洋療法(タラソセラピー)監修、番組出演 ・荒川雅志: 「沖縄の地域と移住者のためのまちづくりセミナー」講演(2017年7月28日、会場: 沖縄県市町村自治会館、主催: 三菱東京UFJ銀行; 後援: 沖縄県、沖縄銀行、琉球銀行) ・荒川雅志: 琉球大学公開講座「ヘルスツーリズム地域創生フォーラム」主催(2017年7月31日、日本再興戦略ヘルスツーリズムのアジア日本の最新動向と題して韓国済州大学キムヒョンギル教授ら他3名の招聘者による基調講演) 荒川雅志: 大和ハウス株式会社主催「沖縄セカンドライフセミナー in 東京〜医学博士荒川雅志が語る沖縄で健康寿命を考える」(2017年7月、東京) 荒川雅志: Yahooニュース2017年7月5日配信「海のカでデトックス! ウェルネスツーリズムの第一人者も太鼓判の「沖縄ウェルネス施設の実力」 荒川雅志: 時事ドットコムニュース掲載2017年4月「ザ・リッツ・カールトン沖縄 新ウェルネスプラン「Ryukyu Wellness Detox & Charge」監修 荒川雅志: 日本レジャー・レクリエーション学会第47回全国大会主催・開催(実行委員長。12月8-10日: 那覇市ぶんかテンブス館)
管理運営	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ●全学委員会、学部委員会の委員参画 ●学科内役割分掌における業務の遂行 	<p>●【全学委員会、学部委員会の委員参画】</p> <p>●【学科内役割分掌における業務の遂行】</p> <p>担当する各種委員会定例会議に出席し円滑な学部学科運営に寄与した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会委員(全学) 2) 島嶼防災研究センター運営委員会委員(全学) 3) 自己評価委員会委員(学部) 4) 健康運動系科目企画小委員会(学部) 5) 学科時間割配当表担当(学科) 6) 2年次指導教員(学科)
計	10.00		10.00
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		下地芳郎	所 属		観光産業科学部 観光科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 観光政策論、国際観光論、サービス経営人材育成事業等を通して具体的事例や外部講師等との議論を踏まえて「実践的」な教育を行う。授業の成果の一部は自治体や企業等の活動に反映させる。 ゼミ指導教員、ゼミ活動の強化及び次年度就職活動に向けての指導を行うとともに、琉球大学観光研究サークル「琉球ツーリズムクラブ」の顧問として活動を支援する。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> 学科担当科目については、実践的な教育強化のため外事例研究や部講師活用を図った。経済産業省事業「サービス経営人材育成事業」については、事業最終年次であり全体の総括担当として、学内外連携を更に強化した。 ゼミ活動やかりゆし海外人材育成事業についても取り組みを強化した。琉球ツーリズムクラブ活動は学生の主体性をひきだすためホテル訪問の際に従業員及びアメリカからのインターンシップ大学生との意見交換会を開催した。 		
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県内の市町村の観光現状についての基礎調査を行う。 DMO研究の一環として国内外の「宿泊税」に関する調査を行い地域観光振興財源確保策について研究を行う。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> 市町村(与那原町、西原町、竹富町)観光振興計画策定委員会に参加し観光政策の課題等について研究を行った。 宿泊税について国内外(特にハワイ)の情報収集を行い、沖縄県における宿泊税導入可能性を研究した。 		
社会 貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 内閣府、沖縄県、市町村及び経済団体等における各種委員会活動を通じた地域貢献を行う。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> 内閣府(泡盛振興委員会)、沖縄県(大型MICE施設関連委員会、景観審議会他)及び市町村(那覇市観光審議会、那覇市中小企業振興審議会等)に参加し観光政策の視点からアドバイスを行った。 		
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 学部長として、観光産業科学部の改組に向けて学部内外との連携を図り平成30年度の新学部設置を目指す 学部長として両学科長及び各年次指導教員と連携した学生の履修状況、大学生生活の支援を行う。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> 学部長として、新学部設置に向けて法文学部と観光産業科学部教員との連携を強化した。また、研究科改組に向けて学内外での意見交換を行った。 学部長として両学科長及び所属教員と連携して学生の履修、大学生生活等の支援を行った。 		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		平野 典男		所 属		観光産業科学部 観光科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.40	1. サービス経営人材育成事業の講義科目の更なる充実を図る。特にインターンシップでは、今年度よりJTA社と課題解決型特別コースを設置したので、産学連携を図り高い教育効果が得られるよう努めたい。 2. URGCCの7つの目標が達成できるよう、ゼミを中心に参加型学習を多く取り入れていく。 3. 大学院については、M2学生の修士論文の完成に向けて企業へのヒアリング調査を積極的にサポートするとともに、契約理論が十分に理解できるよう指導したい。 4. 学科長として、学年主任や学生から学習面・生活面・就職活動等での相談があれば積極的に応じ、サポートしていく。				0.40	1. サービス経営人材育成事業の最終年度(3年目)にあたって、今年度は特に課題解決型インターンシップに力を入れた。6月から12月の半年間をかけて、JTA社と連携し以下3つのコースを実施した。①機内販売商品の企画、②WEBコンテンツの企画、③東洋大学と連携した滞在型旅行商品企画。 2. OCVBの学卒プロジェクトへの参加(優秀賞受賞)、プレミアホテルグループに対するオフシーズン増収策の提案、かりゆし海外研修での福建省訪問等で参加型学習を行った。 3. 修論指導では、ケン・コーポレーショングループに対してヒアリング調査依頼を行うとともに、契約理論の先行文献の紹介等に努めた。指導学生は論文審査・最終試験に合格し、成績優秀者として表彰される予定である。 4. 学生が実施している留学生会の運営管理等についての相談にのったり、就職相談にのったり、種々のサポートを行った。				
研究	0.10	1. 学術書の出版。(仮)「エアラインビジネス入門」(共著)の今年度中の出版を目指す。 2. 航空産業におけるアライアンス問題、日本におけるLCCの展開等について研究を進める。 3. 早稲田大学会計研究所の招聘研究員として同研究所の研究会参加及び研究叢書の執筆を進め、今年度中の出版を目指す。				0.10	1. 2017年9月晃洋書房から共著「エアラインビジネス入門」を出版。全国観光系7大学でテキストに採用された。 2. 上記著書執筆にあたり、特に空港問題について研究を行った。 3. 会計研究所の研究会に参加し、業績測定に関する論文Dutta, Reichelstein(2003)について発表を行った。出版は来年度に持ちこされるが、既に原稿は上梓している。				
社会貢献	0.10	NPO法人シニアマイスターネットワーク(SMN)が厚生労働省から委託して進めるホテル産業職業能力資格の年度内国家資格化に向けて、テキスト執筆、審査等を行う。				0.10	1. SMN会員としてホテル産業能力資格の国家試験申請作業への協力や観光経済新聞への寄稿を行う。28年度にはSNMが厚生労働省より検定機関として認定される見通し。 2. 観光庁「産学連携による実務人材育成ワーキンググループ」委員、中城村「観光振興計画策定委員会」「観光協会設立準備委員会」委員に就任。				
管理運営	0.40	1.平成30年4月の学部改組、新学部設立に向けて学部長をサポートし、各種会議への出席、WGでの準備作業や検討に取り組む。 2.学科長として学科の円滑な管理運営を心がける。 3.各委員会活動に積極的に取り組む。				0.40	1. 新学部設立に向けて、各種会議に参加し、他専攻・学科との意見調整等を行った。 2. 学科長として、学科内の円滑な運営を心掛けた。 3. 全学の琉球大学全学的戦略ポスト再配分審査会の委員、学部の将来計画委員会、自己評価委員会、広報委員会、予算委員会、国際交流ワーキンググループの委員として活動。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		片岡英尋	所 属		観光産業科学部 観光科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	「観光学概論」の講義内容につき「基礎演習」との連携向上を図る。 最終年次のゼミ生と留学から復帰するゼミ生への対応が一面的にならないように留意し、希望の進路に進むサポートを充実させる。			0.40	担当する講義間の内容の連携と、受講生との双方向での応答を増やし、従来よりも理解度を向上させることが出来たと考えている。最終年次のゼミ生の進路へのサポートに関しては、情報提供等、当初予定の範囲内で行った。		
研究	0.40	科研費研究の成果として、紀要等への記載を目指す。 また、前回の科研費研究の成果をまとめつつ、次回の科研費獲得のための企画を行う。			0.10	管理運営に対する業務ウェイトが想定より高くなり当初目標は達成できなかった。		
社会 貢献	0.10	今年度も、うるま市中小企業振興審議会の会長を拝命しており、同市の中小企業の活性化に注力する。			0.10	今年度も、うるま市中小企業振興審議会の会長として、同市の中小企業の活性化に注力した。		
管理 運営	0.20	入試担当委員として、管理運営を迅速確実にする。			0.40	図書館に関連する2委員会と新設学部に関する入試関連業務に従事し、前期・後期ともに時間を要し想定以上の業務ウェイトになった。又、入試実施関連業務も多くなったが全体として入試関連の管理運営の迅速化、確実化には資する所があったと考える。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前	波多野 想		所属	観光産業学部 観光科学科	職名	教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.20	<p>(1) 学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学プレ演習」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」、選択科目として「産業観光論」「世界遺産論」を提供する。また大学院においては「観光資源マネジメント特論」「文化観光資源マネジメント演習」「特別研究」を担当する。</p> <p>(2) 昨年度に引き続き、各科目において、Problem Based Learning(PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養うことを目標に、知識の吸収に留まらない授業を実施する。</p> <p>(3) 修了年度を向かえる大学院生の調査研究活動および論文執筆の指導を積極的に行う。</p> <p>(4) 研究室における活動をより充実させるため、平成29年度も引き続き、週一度夜間に読書会を開催する。大学院教育においても、独自に大学院ゼミを週一度開催し、大学院生および大学院進学希望者の研究能力の向上に努める。</p>	0.20	<p>(1) 目標通り、学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学プレ演習」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」「産業観光論」「世界遺産論」を開講、大学院においては「観光資源マネジメント特論」「文化観光資源マネジメント演習」「特別研究」を開講した。</p> <p>「観光地理学」においては、Problem Based Learning(PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養う授業を心がけた。</p> <p>(2) 特に、「観光地理学」「産業観光論」においては、Problem Based Learning(PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養う授業を心がけた。また、「観光学プレ演習」では、専門基礎知識の獲得、思考力の強化、発言力の向上を目指して、文献講義を中心に進め、同時に現場視察を行った。さらに、南城市において開催された学生アイデアコンペ「観光スタイル提案コンペ」で、南城市垣花集落の地域活性化案を提案し、「南城市長賞」を受賞した。「観光学演習Ⅰ」では、南城市久手集落において、地域住民の空間認識を明らかにするための現地調査および地域活動を実施し、その研究成果を観光社会学研究会(越智ゼミ)との合同発表会の場(2017年12月21日)で発表した。「観光学演習Ⅱ」においては、年度を通じて卒業論文の作成を指導した。</p> <p>(3) 修了年度を向かえた大学院生の修士論文作成指導に重点を置く予定であったが、結果として生活指導(大学院生として研究に向かう気持ち、態度、生活習慣)に大半の時間を割くこととなった。しかし今年度末には、その指導に効果が現れ、来年度の研究に向かって積極的な態度を獲得するに至った。また中国人留学生(研究生)のレポート作成指導を行った。</p> <p>(4) 予定通り、大学院生および一部のゼミ生が参加する輪読会を不定期に開催した。また大学院生に対して、科目とは別にゼミを開催し、研究テーマの収斂に繋げた。</p>		
研究	0.25	<p>(1) 平成29年度より開始している科研費研究「東アジアにおける文化遺産としての鉱山景観のマネジメント」に係る本調査を、台湾、韓国、中国等東アジア各国および国内(島根県石見銀山)において実施し、理論再構築を目指す。</p> <p>(2) (台湾)新台北市立黄金博物館との共同研究(金瓜石鉱山と釜石鉱山の比較)を実施する。</p> <p>(3) 日本人農業移住に関する歴史的研究を行うため、外部資金の獲得を目指す。</p> <p>(4) 復帰前沖縄における文化財保護精度の実態、および遺跡の公園化(観光地化)に関する歴史的研究を行うため、外部資金の獲得を目指す。</p> <p>(5) 研究論文については、学会発表1件、審査付論文2件以上を目指す。</p>	0.10	<p>(1) 科研費研究「東アジアにおける文化遺産としての鉱山景観のマネジメント」に係る調査を、台湾、韓国、日本国内(島根)で実施し、さらに理論再構築のための議論を研究協力者と継続的に行った。しかし研究の進捗の点では、学部改組に係る用務に多くの時間を割かざるを得ず、予定通りの進捗には至らなかった。結果として、本研究を来年度まで継続することとなり、すでに国際研究発表会(台湾、日本)の開催(6月)、生野銀山の現地調査(5月)がすでに決定している。</p> <p>(2) (台湾)新台北市立黄金博物館との共同研究(金瓜石鉱山と釜石鉱山の比較)を滞りなく実施し、以下の研究報告書を出版した。なお、本研究の結果作成される研究報告書に対しては、台湾内研究者に厳正な査読がされていることを旨とする。</p> <p>『臺、日礦業遺址歴史調査暨活化再利用研究案』(新台北市立黄金博物館、2017年12月、査読有り)</p> <p>(3) 日本人農業移住に関する歴史的研究に関して、論文を執筆し、現在投稿に向けた手続きを行っている。外部資金の獲得には至らず、来年度の目標に再度したい。なお、これに関連して、以下の研究口頭発表を行った。</p> <p>・「日本統治期台湾の日本人農業移住にみる空間配備とその変容」(RSAF、立教大学、2017年9月2日)</p> <p>(4) 復帰前沖縄における文化財保護精度の実態、および遺跡の公園化(観光地化)に関する歴史的研究は、図書館等における文献資料の収集を数度にわたって実施したものの、外部資金の申請には至らなかった。こちらも来年度の目標にした。</p>		
社会貢献	0.25	<p>(1) 南城市と共に進めるエコミュージアム活動を平成29年度も継続的に行い、同時にそれをゼミ活動の一環として、調査研究とワークショップを開催し、まちづくりにきょうけつ作りを行っていく(それが同時に、学生の社会的活動及び実践力向上に繋がることを狙う)。</p> <p>(2) 以下の自治体関連委員会委員について、平成29年度も継続的に担う。</p> <p>〔景観関係〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」委員および事業景観アドバイザー ・沖縄県「沖縄県景観評価委員会」(委員) (「沖縄県景観評価システム検討委員会」から継承) ・那覇市「那覇市都市デザインアドバイザー」 ・沖縄都市モノレール「沖縄都市モノレール車体利用広告審査会」(委員) <p>〔文化遺産関係〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県「沖縄県世界文化遺産保存活用学術委員会」(委員) ・沖縄県「沖縄県文化財保護審議会」(専門委員) ・南城市「『南城市の民俗』専門委員会」(委員) ・南城市「畜場御嶽保存活用計画策定委員会」(委員) ・南城市「南城市文化財保護審議会」(専門委員) <p>〔観光関係〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南城市「南城市観光振興委員会」(委員) <p>(4) 西原町「西原町歴史文化基本構想策定委員会」の一環で、西原町内の幸地集落における実践的活動を本ゼミが主体となって実施する。</p>	0.25	<p>(1) 南城市で実施しているエコミュージアム設置計画への関与度を高め、南城市観光商工課観光振興係との協力関係構築につとめた。特に上述の観光スタイル提案コンペにプレゼミ生とともに参加し、垣花集落と区長やその他住民との関係構築を行った。また一部プレゼミ生と波多野で、集落における報告会を実施し、提案の実施に向けた活動を進めている。同活動は、平成30年度には「観光学演習Ⅰ」を通じた活動として再度展開することで、活動の実現と学生の社会的活動及び実践力向上を狙うことをすでに南城市と協議した。</p> <p>(2) 以下の自治体関連委員会委員について、以下の通り務めた。</p> <p>〔景観関係〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」委員および事業景観アドバイザー ・沖縄県「沖縄県景観評価委員会」(委員) (「沖縄県景観評価システム検討委員会」から継承) ・うるま市(都市建設部勝連城跡周辺整備室)「景観アドバイザー会議」(委員) ・沖縄都市モノレール「沖縄都市モノレール車体利用広告審査会」(委員) <p>〔文化遺産関係〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県「沖縄県世界文化遺産保存活用学術委員会」(委員) ・沖縄県「沖縄県文化財保護審議会」(専門委員) ・南城市「『南城市の民俗』専門委員会」(委員) ・南城市「畜場御嶽保存活用計画策定委員会」(委員) ・南城市「南城市文化財保護審議会」(専門委員) <p>〔観光関係〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南城市「南城市観光振興委員会」(委員) ・うるま市「うるま市観光まちづくり推進協議会」(副会長) 		
管理運営	0.30	<p>(1) 全学委員会(大学院委員会、社会連携に関する自己点検・評価委員会、短期留学プログラム実施委員会、留学生センター運営委員会)の職務を全うする。</p> <p>(2) 学部将来計画委員会委員および施設管理・安全衛生委員会委員としての職務を全うする。特に、前者に関連して、学部改組に係る業務を積極的に行う。</p>	0.45	<p>(1) 全学委員会の職務を全うした。特に、「全学大学院教育プログラム委員会」では大学院版URGCCの策定作業のためのワーキンググループに参加し、議論を進めた。</p> <p>(2) 学部将来計画委員会委員として、学部改組、特にカリキュラムの整備を積極的に行った。</p>		
計	1.00		1.00			

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	越智 正樹		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次指導教員として、1年の全学生のサポートに携わるとともに、必修講義を執り行う。 ・授業の改善取組(研究活動の反映を含む)。特に今年度は「社会調査法」においてグループワークを追加した改善を行う。 ・ゼミ運営に関する、学生からの積極的な意見の聴取 ・ゼミ指導教員として、就学・就職活動上のアドバイスおよびメンタルヘルスケア(留学・休学者への対応を含む) 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次指導教員として、1年の全学生の修学サポートに携わるとともに、必修講義を執り行った。また学生からの依頼に基づき、複数件の申請書等の添削を行った。さらに「学卒プロジェクト」に参加した1年次グループの顧問として、コメントやアドバイスを適宜送った。 ・社会調査法におけるグループワークの導入をはじめ、各授業の改善に取り組んだ。 ・ゼミ運営について、学生にイニシアティブを持たせつつ、現地調査の設計・実施や域学連携事業参画を行った。また卒業論文につき調査や執筆の指導に当たった。 ・ゼミ指導教員として、各年次の修学上の質問に対するアドバイス、4年次の就職活動支援(ES等書類の添削を含む)を行った。 ・ゼミ内外を問わず、学生の依頼に基づき、留学申請書類等の添削とアドバイスをを行った。 	
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度に取得した2つの科研費による研究(単独・共同)の遂行 ・国際沖縄研究所共同研究プロジェクトの研究遂行・成果発表 ・日本村落研究学会理事としての活動 ・学外研究者2~3名との共同による、科研申請に向けた体制づくり 	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・2本の論考(査読なし)を学会誌に掲載した。 ・H27年度に取得した科研費による研究について、その一部の調査を遂行した。 ・H30年度西日本社会学会大会シンポジウムのコーディネーター兼登壇者を務めることとなり、学外研究者らとの研究打ち合わせを進めた(なおH27年度に取得した科研費による研究の成果の一部は、このシンポジウムと特集論文を通して発表するものであり、この打ち合わせは同研究の精緻化を行ったものでもある)。 ・国際沖縄研究所共同研究プロジェクトの研究を遂行した。またその成果について共著本の原稿として執筆している(3月末〆切)。 ・日本村落研究学会理事として学会運営の庶務に当たった。 	
社会貢献	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興・観光振興に関係する県、市町村の委員会活動(本書類作成時点では具体名を秘す) ・アクションリサーチを通じた観光・地域振興現場との協働 	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・本学農業経済学研究室と共同で、「平成29年度農山漁村振興交付金事業(農泊推進対策)」(農水省)において宮古島の農泊民間団体と協業した。 ・平成29年度沖縄型産業中核人材育成事業「旅行業におけるイノベーション人材育成プログラム」実行委員会(内閣府)の委員長を務めた。 ・「八重山ビジターズビューローのあり方に関する有識者検討会」(内閣府)の委員を務めた。 ・「沖縄県グリーン・ツーリズムネットワーク」(事務局:沖縄県)の幹事を務めた。 ・「粟国村移住・定住促進協議会」の委員を務めた。 ・「与那原町交通施策検討協議会」の委員を務めた。 ・「南城型エコミュージアム提案コンペ」(南城市)にゼミ活動の一環として参加し協力した。 	
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント防止対策委員としての活動 ・ハラスメント事案対応専門委員としての活動 ・入試関連業務 	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント防止対策委員 兼 事案対応専門委員として、数件の事案を取り扱い、申立人・被申立人をはじめ部局長等関係者や事案関係者らへの聴取・対応に携わった。 ・戦略的研究プロジェクトセンター運営委員として、センター利用申請の審査に当たった。 ・「学内共同教育研究施設等研究環境整備費」評価ワーキンググループの委員として、全申請に対する評価を行うとともに、3件の実地ヒアリングを行った。 ・人文社会系新研究科検討委員として委員会に参加するとともに、同ワーキンググループメンバーとして原案作成に当たった。また本学学長補佐の代理として、文科省での被ヒアリングを担当した。 ・副研究科長として、研究科の庶務を執り行った。 ・入試関連業務を執り行った。 	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	大島 順子		所属	観光産業科学学部 観光科学科	
職名			職名	准教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	30.00	<p>①学生の効果的かつ効率的な教育環境の構築をめざし、授業運営に関する連絡(特に予習・復習の徹底)体制強化及び修学のモチベーションを高めることを目的に、担当する科目すべてにおいてe-learning(WebClass)を活用する。</p> <p>②URGCCの学習達成目標に繋がるアクティブラーニングの具体的な手法の構築を目指し、専門教育で担当する授業においてポートフォリオに取り組む。ポートフォリオの活用においては効率良い方法(時短につながる)となるよう工夫する。</p> <p>③研究及び出張等で得られた知見や最新の情報を授業に反映させる。</p> <p>④現場から学ぶことを重視し、沖縄のフィールド(特に、やんばる地域)を活かしたゼミ活動を他学部との連携及び地域住民の支援を受けて取り組む。</p>	30.00	<p>①目標設定の通り、e-learning(WebClass)の活用を4科目において導入し、学生に浸透させることができた。予習(Study Guideをダウンロードし、事前学習に取り組む)を行わないと授業に積極的な参加ができない状況をつくり上げ、閲覧回数を向上させることができた。(例えば、「エコリズム入門」及び「環境教育論」における【資料】閲覧回数合計は、1216回と467回であり、学生一人当たり15回の授業において27.6回、17.9回閲覧したことになった。) e-learningについて効果的な活用方法を学び、今後も授業に活かしていきたい。</p> <p>②「エコリズム入門」と「環境教育論」においてポートフォリオ及びアクティブラーニングの方法を取り入れることができた。学生へのアンケート結果をもとに教授法についての実践報告をまとめている。</p> <p>③授業内容に関連する最新の情報等をe-learningへ公開することができた。</p> <p>④ゼミ活動を農学部との連携及び地域指導者の協力のもと合計10日間取り組むことができた。</p>	
研究	30.00	<p>①特化型研究「特色ある研究」に取り組み、文部科学省の科学研究費助成事業「やんばるの自然資源の保全と適正利用のための地域住民の理解を作り出す仕組みの提案」(基盤研究C)の研究代表者として第四年度目の研究を遂行する。</p> <p>②産官学受託事業として林野庁沖縄森林管理署の外部資金の獲得を目指し、「平成29年度希少野生生物保護管理事業(沖縄島北部)」担当者(契約主体:琉球大学)として、国有林野の利活用における調査研究および提言を行う。</p> <p>③農学部との共同研究として、「やんばる自然資源調査」の学際的な調査及び研究活動を継続して履行する。</p> <p>④上記①～③の成果及び社会貢献活動③の成果を関連学会等の査読付き学術誌へ投稿する。(国際1件、国内1件)</p> <p>⑤9月2～3日に開催される日本環境教育学会(岩手大学)にて、口頭発表を行う。</p>	30.00	<p>①第四年度(期間延長)の研究は順調に進めることができた。⑤および目標設定に記載無かった■での発表は、①の成果発表の一部である。</p> <p>②受託した林野庁沖縄森林管理署の事業は計画通り遂行することができた。</p> <p>③森林調査は共同研究として継続している。</p> <p>④日本森林学会誌に、共同執筆者として投稿した(査読中)。</p> <p>⑤日本環境教育学会・岩手大会(9月2～3日)において「持続可能な観光のための環境教育」と題した口頭発表及び「高等教育におけるESDへの貢献」と題する自主課題研究会を実施した。</p> <p>■Wildlife Tourism Australia Workshop(オーストラリアQLD州Atherton:7月10～11日)の「Wildlife Interpretation: Interpretation into the future」に参加し、専門分野の研究者/実践家の方々と意見交換を行い、研究の視点を深めることが出来た。</p> <p>■日本森林学会に入会し、第129回日本森林学会大会(高知大学:3月26～29日)において、「森林組合職員を対象とした森林環境教育の実践」と題する口頭発表を行う。</p> <p>■11月から学内のジェンダー協働支援室がコーディネーターする教育研究支援員制度に採択され、授業準備や研究の資料整理を支援員に行ってもらえたことは教育(授業準備等)の時間短縮、ならびに研究の時間確保に役立った。</p>	
社会貢献	20.00	<p>①沖縄県の自然環境保全審議会等、審議会委員に継続して参画する。</p> <p>②沖縄県内自治体の各種委員会の委員に継続して参画する。 上記の委員会等には、学内の教育研究に支障無く関わることはもちろんであるが、参画することにより入手できる貴重な(学術的及び統計的)情報を教育研究に活かすよう努める。しかしながら、審議会や委員会の再任にあたっては就任の削減に努める。</p> <p>③公開授業(2科目)の提供及び公開講座3件の担当教員として地域の指導者と学部の教員と共同で開催する。</p> <p>④JICA研修及び沖縄県かりゆし長寿大学における講義の担当ならびにカリキュラム作成にあたっての協力をを行う。</p> <p>⑤平成28年度に引き続き、免許状更新講習2件を提供する。</p> <p>⑥大学のCOC事業における学部からのプロジェクトとして自治体行政職員の研修の企画・運営を担当する。</p>	20.00	<p>①沖縄県河川整備検討委員会、沖縄県多面的機能支払交付金第三者委員会(村づくり課)の委員(計2件)として、専門性を活かした審議に参画した。</p> <p>②県内自治体の各種委員会への参画は無かった。</p> <p>③公開講座(2講座)で地域の組織(国頭村森林組合)と地域指導者と連携して約30名の受講生を受け入れ、好評のうちに終了することができた。成果分析を元に生涯学習教育研究センターの紀要に論文を執筆中である。</p> <p>④JICA研修における講義(計6時間)、沖縄県かりゆし長寿大学における講義(計4時間)及びカリキュラム作成にあたっての支援(相談、教材選び等)を行った。</p> <p>⑤免許状更新講習3件(琉球大学及び石垣島)を提供した。</p> <p>■本学COC事業の一環で、国頭村観光協会職員を対象とした研修(講義&ワークショップ)を企画運営する。(3月31日実施予定)世界自然遺産登録を目指し、受入れ地域の観光協会の体制づくりが遅れていることもあり、次年度以降もなんらかの大学からの支援が地域貢献ならびに協働取組みの観点からも求められている。</p> <p>■環境省の九州地方ESD活動支援センター企画運営委員会の委員に就任し、専門性を活かした審議に貢献することができた。</p> <p>■夏期短期研修「小中高特支 環境学習指導講座」@沖縄県立総合教育センター(8月1日)の講師依頼を受け、「環境教育・ESD概論」を担当した。</p> <p>■平成29年度やんばる自然体験活動協議会関係者研修会@やんばる野生生物保護センター(11月15日)において、コーディネーター役を依頼され、担当した。</p> <p>■沖縄県農林水産部森林管理課の「森林・林業従事者向けのガイド講習会」の企画・運営を依頼され、8月から3月までに教回主任講師として担当した。</p>	
管理運営	20.00	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会の企画部会委員として、学内の環境マネジメントシステム構築に参画し、特にエコロジカルキャンパス学生委員会の指導教員として学生活動を支援する。</p> <p>②全学学士教育プログラム委員会(URGCC)において、ワーキンググループメンバーとして積極的に関わる。</p> <p>③全学対象の環境総合副専攻の担当教員の一人として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わる。</p>	20.00	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員として、主に学生委員会の担当教員となり、学生活動(8月環境報告書作成、9月フォトコンテスト実施、10月HESDフォーラム@立命館大学での口頭発表、12月エコプロダクツ2017出版、3月成蹊大学との交流、毎月のクリーンキャンパス大作戦等の企画・運営・引率)の支援にあたった。</p> <p>②全学URGCC学士教育プログラム委員会において、ワーキンググループメンバーとして積極的に関わった。今年度は新学部への移行時期でもあり、学士教育プログラム委員会へ提出する新規作成文書の量が多く、作業する時間の確保が難しく身体的にもきつく感じることも多かった。</p> <p>③全学対象の環境総合副専攻及び琉球学副専攻の担当教員として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わった。</p> <p>■国際沖縄研究所併任教員として、活動した。</p>	
計	100.00		100.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。